

春風秋霜

6月号

令和5年6月20日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 何に興味を持つのかは、ちょっとしたきっかけから

先日、東海道金谷宿大学の総会が金谷公民館で開催されました。島田市教育長は、金谷宿大学の理事長になっていきますので、あいさつをさせていただきました。

金谷宿大学は、教えたい教授の皆さんと学びたい学生の皆さんが集まって、学びの場を作っている場所です。開会式前に森澤学長からいただいた資料の中に、NHK連続テレビ小説「らんまん」のことが書かれていましたので、牧野富太郎博士の話をしてきました。私も大学時代に、牧野植物図鑑を使って植物のことを勉強しました。先日見たNHK連続テレビ小説の中で、牧野博士は自分で石版印刷を学んで、自分で描いた植物画を使って学術誌を作りました。その時に「自分が目指す道が見えているのに、その道を走らないのは、もったいないことである。精一杯やるのが大事である。」という話をしました。私はその話を紹介し、学生にとってやりたいことがあって、そこに先生がいてくれるのは、主人公の話と金谷宿大学の学びと同じであり、この機会を大事にしてほしいという願いを伝えました。

話は変わりますが、私は小学生のころから電波や機械に興味があり、ラジオから音が聞こえてくるのがとても不思議でした。目で見ても何も見えない空間に何かが流れているのだろうとイメージはできるのですが、見えない何があるのだろうと考えていました。私は島一中の卒業生ですが、当時は中学生の時にクラブ活動の時間があり、1年生から3年生の生徒と一緒に活動しており、私はアマチュア無線クラブに入っていました。そんな影響もあり、中学生の時にアマチュア無線の免許を取り、世界中とはいきませんが、日本国内の色々な方と無線で話をするという活動をしていました。また、高校生の時には、富士登山が企画され、そこにポータブル無線機を持って行って、交信をしたこともありました。小学生や中学生のころに興味を持ったことが、大人になってからも趣味として継続していたり、趣味が仕事になったりという人もいます。

私が大学生のころにはコンピューターが開発され、これからはコンピューターの時代だという時が来ました。当時は、何とコンピューターを本屋さんで売っていたのです。それはマイコンと呼ばれておりTK80という名前で売られていました。自分で組み立てて、プログラムも打ち込んでいました。その機械は、買えませんでした。私が購入した最初のパソコンは、NECのPC-800という機械でした。当時発売されていた、月間マイコンや月間アスキーという雑誌を買い、そこに載っているプログラムを自分で打ち込んで、ワープロとして使いました。BASICというプログラムを自分で打ち込むのも大変でしたが、当時は、楽しくて仕方がないという感じだったので覚えています。

あれから40年近くたっていますが、ChatGPTのようなものが作られ、論理的な文章をコンピューターが自動的に作ってくれる時代が来るとは思いませんでした。

子供時代に、興味あるものに出会うことや、いろいろな経験をするのが大事だと思います。それらの体験から新しい考えが生まれたり、将来に繋がっていくことがあったりします。子供たちは、色々な考え方や、色々な経験をすることによって、自分を創っていくのだと思います。

2 新しいツバメの家族がやってきました

前回、我が家にくるツバメの話を書きました。今回もツバメの話第2弾を書きたいと思います。前回紹介したカラス除けのネットはそのままにして、以前巣を壊したいたずらカラスが来ないようにしています。最近、巣立っていったツバメの親子に代わって、新しいツバメの夫婦がやってきました。今まであった巣を修復し新しい草を巣に運んできて住みやすく改良してから新しい生活を始めたのです。



<道の駅にいたツバメの子供たち>

前回と同じようにツバメの巣の下に卵の殻が何個か落ちていましたので、赤ちゃんツバメが、巣の中にいると思われます。元気なツバメが巣立ってくれることを祈っています。

肘かけ椅子

「ウォーキング」

学校給食課長 矢部秀男

4月の人事異動により学校給食課長となりました矢部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

ある時、かかりつけの医師から「高血圧の人は運動をなささい」と言われたのを思い出し、昨年秋から土日限定ではあるがウォーキングをするようになった。初めは自宅近くの通称はなみずき通りを歩いていたのだが、狭い歩道でのすれ違い困難や赤信号での一旦停止など、思い通りに歩けないことにストレスを感じていた。そんな時、知人に藤枝の蓮華寺池公園のウォーキングを勧められたので、昨年暮れに初めて行ってみた。

池を見渡すと、大勢の人たちが畔の遊歩道を反時計回りの一方通行で歩いていた。実際に歩いてみると遊歩道の幅が広く、ベビーカーを押しながら歩いている夫婦や複数匹の犬を連れて散歩する家族連れなども楽に追い抜くことができ、一度も立ち止まることなく歩けたことがとても嬉しかった。

だが、歩きやすさのほかに自分がこの場所を気に入った理由、それは、池では家族連れが楽しそうに白鳥型のボートを漕いでいたり、遊歩道わきの東屋ではお年寄りグループが将棋を指していたり、奥の野外音楽堂からは管楽器の練習をしている音色が聞こえてきたり・・・この平和でのどかな風景が自分の気持ちを穏やかにさせてくれる点である。体の健康のために始めたウォーキングだったが、まさか心まで癒されるとは。1周約1.5キロのコースを大好きなHR/HMを聴きながら4～5周歩く時間が自分にとっては至福のひとつときである。